

# Dear地球民

第二号

1989年11月発行

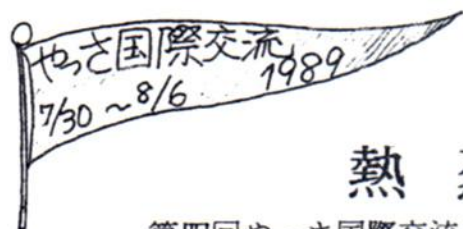
編集発行

ゆがわら国際交流協会

神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1

湯河原町商工会内

☎ 0465-63-0111



Welcome to YUGAWARA

## 熱烈 歓迎

第四回やっさ国際交流は、今年も七ヶ国の期待と希望に溢れた青年27名を駅頭に迎えた。

毎年新たな興奮につつまれ、どんな青年がやって来るのだろうか、お互いに確かめあうまでの喜びは当事者だけが知る喜びだろう。例年どおり、中国の青年が多く、ブラジルのグループも毎年加わるようになった。今やこの両国のお客さんは常連の感があり、嬉しい限りだ。

今年は新しいメンバーとして、マレーシャ、タイ、ガーナ、ベルギーの青年が加わり、一段と国際色をましてきた感があった。

迎える側の交流協会のメンバーは経験を積んだとはいえ、やはり事前の打ち合わせ、準備は大変なものだった。

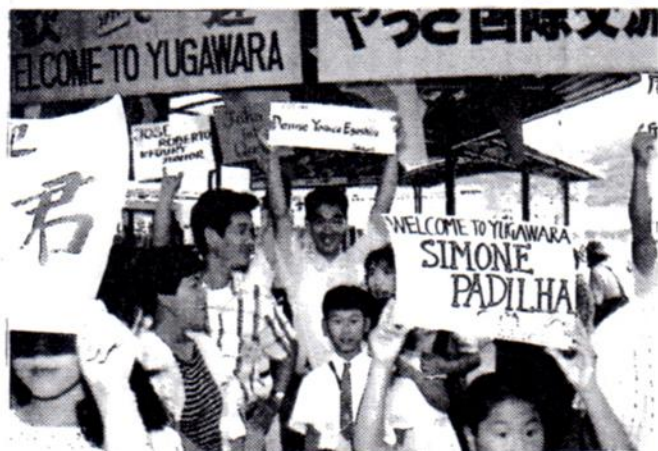
ホスト役をお願いする場合に、それぞれの家庭の事情もあり、要望も当然ながら出されるので、その組み合わせもまた大事な条件になる。

しかし、協会側としては、男女の区別、国別の区別はできても、顔を見ている

わけではないので、この仕事は大変に気を使うことになる。

幸にも今までは受け入れ側の好意と善意で解決してきた。

この種の仕事はホスト側の寛容な理解を得て、初めてできるもので、ボランティアの誠意以外のなにものでもないのだ。





## 湯河原町 真夏のビッグ・イベント



### やっさ祭りへ…… 地球民連が参加

毎年のやっさ祭りに全町あげて、各グループ、団体が参加するが、国際交流協会の外国人の参加は一つの名物になった。

お国から踊りのあり方は色々あるが、夏の夜の楽しい過ごし方はどうやら万国共通のようだ。

ブラジルの青年たちの喜びようは、カーニバルにも象徴されるように、独特のものがあるようだ。

ともかく、踊りの手、足の運びかたを簡単に練習するだけだが、若い人達 だから、リズムに素早く乗り、心から楽しそうに調和できるのを見ていると、あらためて、喜びを感じる。

交流協会メンバーとは別に町を訪問していた韓国の女性やアメリカの女性が、交流協会の外国人のグループをみて、それに溶け込むように参加したのも嬉しい光景だった。

まるでお母さんのように、そばに付き添って、一緒に踊っていた人、拍手を惜しみなく与え、それこそ地球民というべき、人種を越えた喜びの姿があった。



## ホームステイの中での小さな 国際交流があった。

杉山茂久さんは今年のホームステイで二人の青年の面倒をみた。  
一人はアフリカ、ガーナ出身のジュン、ティチ、コン君、他の  
一人はブラジル出身のジョーゼ、ロベルト、キーフリ、ユニ  
オール君の二人。

幸にも杉山さんは英語が話せたので、三人で小さな国際交流の場を  
もてた。

お互いの生活様式は完全に異なっているけれども、見事なまでに意志の疎通ができ、三人三様の  
理解を得て、楽しいホームステイで満足されたそうです。

アフリカ出身のティチ、コン君にインタビューをしました。

僕の国はこれからの国で、おおいに理想に燃えているのは当然です、英国の支配下から  
戦後独立、最も大切な教育制度を残してくれた。

今我々の使用している英語はキングス、イングリッシュで、ほんものの英語を話して  
いるのだと大変誇らしく話しをしていました。

若者らしく、自己主張を堂々としている態度は立派なものでした。

# 交流

# WELCOME TO YUGAWAR



心暖まるメッセージを残し  
また会える日を期待して.....

7月30日から8月6日までの日程には、歓迎会、懇親会などの行事予定、盛りたくさんのスケジュール、やっさ踊りの練習などなど。

しかし、その忙しいスケジュールの合間をぬって自転車で町の隅からすみまで、日本人の生活の実際を肌で感じようと、走り回った青年の話しを聞くと、ほんとうに嬉しくなる。そのメッセージの一部を紹介しよう。

1. 深い生活の言葉を勉強しました。
2. 日本人の生活は忙しいですが、一緒に生活してみて、幸せなのがよくわかりました。
3. きれいな町で、人々はやさしく、心と心が通じました。
4. 今年は国に帰りませんが、故郷に帰ったのと同じ気持ちになりました。
5. 私は初めて日本のゆかたを着ました。たくさん写真を撮りました。
6. 日本語を教えてもらいました。この間日本人になりました。今度またお父さん、お母さんの家にきます。(ぜったいに)

寄せ書きのメッセージから.....

1. 湯河原の山は美しい、海も美しいし、人々も.....
2. お父さん、お母さん、弟はとても親切な人です。
3. お父さん、お母さん、私はほんとうに帰りたくない。
4. さようならを言うのはつらいですが、風の中でほほ笑みながらアリガトー
5. 再見 一路平安

皆さんが一樣に、お父さん、お母さんと呼んでいるのには、感激します。こんな素直な若人に幸あれと祈るのみ。

Dear地球民

熱帯の夏  
一日をアフリカが  
我是英雄

湯河原の山も美しい  
海も美しい

みんな、かわいいです。

祝你一路平安!

高橋資次

美しいです! 銭中興 (中国上海)

To Mr. Yataka!!  
Good luck!  
T.S. Sayuaga  
Toballadi

PARA A MINHA FAMILIA DE YUGAWARA: MUITO OBRIGADA POR TUDO. VALEU!!!

再见 YUJI WACHI  
再见 YUJI WACHI  
再见 YUJI WACHI

A MINHA FAMILIA  
A VOZ DE MUITO OBRIGADA

YASSA



PAZ  
AMOR  
PROSPERIDADE

心から湯河原の  
人々に感謝はす!

ありがとうとおかあ  
さんとおとうとはとて  
も親切な人です。

周家欣

長い時間お世話に  
かりました..

Thank you to all  
nice people of  
Yugawara for giving me this  
opportunity to learn about  
Japan. Ronny  
See you again!  
niki

THANK  
U  
for  
the  
treat!  
Bye for now!!



## 外国語講座の 覗き見余聞



外国人と接するためには、当然のことながら言葉が大事だと言うわけで、中国語と英語の講座を始めたところ、大変な人気で、毎週一回の講座を10回続けた。

目下二回目を実施中で、12月に終了する予定になっている。10回くらいで話せるようになるのは無理として、空港で何か荷物について質問でもされた場合の受け答えくらいはできるようにはなるだろうと期待されている。

講師は単に言葉だけではなく、その土地の風俗、習慣の解説があり、それがまた大変面白い。

中国編・・・色々と表面的な情報は入ってはいるが、意外と生活面での違いは知られていない。興味ある話題の2,3を拾って見る。

その1、お風呂は共同で入る習慣はない。毎日入る習慣もないようだ。

その2、トイレは部屋の中に便器が置いてあり、その便器は毎朝外に出しておいて、集められるようになっている。

その3、日本人はギョーザは焼いたものと思っているが、水ギョーザと言って、お湯でゆがいたものが主流である。

ニンニク、生ねぎは入れないで、かじりながら食べる。

その4、タクシー代は意外と高い。運転免許証を所持していることは特別の資格で、よい収入になる。

その5、外国人用のお金は、特別兌換券があり、それで買い物その他の利用をする。

その6、愛人(アイレン)文字通りですと恋人となるのですが、中国では親しい友人であり、特別の意味はないそうです。

しかし、台湾では恋人を意味するのだそうです。

アメリカについては中国よりは情報が多いので、よく知られているが、いずれにしても生活様式の違いを、語学を通じて認識できることは意義あることでしょう。



協会では、かねてから交流をすすめている、米国カリフォルニア州サンファン・カピストラーノ市を皆様により知っていただく為に同市の写真パネル展示を町内金融機関などに於いて行います。サンファン・カピストラーノ市は、「快傑ゾロ」の舞台ともなった所、毎年3月19日(聖ヨゼブの日)に燕が帰ってくることで知られています。町の産業は観光とオレンジ栽培といえますから、湯河原町ともよく似ていますね。



### クリスマスパーティーの おさそい

楽しい催し物、盛り沢山のパーティー 多くの皆様の参加をお待ちしています。

日時.....12月21日(木)  
PM. 7:00  
場所.....金沢治屋 マンダリン・ハウス  
会費.....3000の 会員者  
申し込み担当.....ザックス 斎藤 まで。

TEL 62-7299

やっさ国際交流の開講式の司会でおなじみの協会役員、榎本清美さんが、この夏、箱根宮の下に嫁がれました。とはいっても、ご主人の石井さんと協会の手伝いに時々山を降りてきてくれます。新しいカップル、どうぞ宜しく。

## 「編集後記」

やっさ祭りは当町のメイン、イベント、毎年この祭りに外国人の若い人達が参加し、国際色豊かな雰囲気盛り上げる。

今年は天候にも恵まれ、一段と盛り上がった。

この演出にはホスト、ファミリーの絶大な協力があったこと、またホスト、ファミリー選出までの諸準備に協会の役員の苦勞もまた大変なものだ。

国際交流の流れは、全国的に普及しつつあるが、具体的な活動を毎年定期的に行っている町民の善意は、誇るべきものではないだろうか。

ブラジルの青年グループ、日中友好のグループ、は今や夏の大きな楽しみとして湯河原を指定、その他今年は珍しい国のお客も加わり、いよいよこの町も国際色豊かなものになってきた。第四回目の実績を重ね、生活環境の異なる人達を、例え一時でも慰め、理解しあえる、この喜びは何物にもかえられない価値あるものとしたいものだ。

世界的に、何か大きな変化の流れが起こりつつあるが、いざ家庭に迎える個人にはイデオロギーなどは関係なく、人間的な触れ合いが全てを越えて、分かりあえる、こんな見事な外交手段はない。

お別れのパーティに見る友情、涙、尽きぬ語り、毎年のことながら、あらためてその喜びに浸るのである。